

【研究課題名】

消化器がんの発生、進展における特異的な細胞内活性化シグナルの同定、およびそれを標的とした薬物臨床応用のための基礎的検討

【研究概要】

手術の際に提供いただいた腫瘍などの組織の一部から、RNA やタンパク質を抽出して、PCR 法やタンパク電気泳動、免疫染色法などにより腫瘍特異的な遺伝子発現変化やタンパク発現変化を明らかにします。さらに、それらを系統的に分析し、既存の分子標的薬のターゲットとなるような細胞内シグナルを明らかにし、それらを阻害することによる抗腫瘍効果を、さらに培養細胞などを用いて基礎的に検討します。

【本研究の目的・医学的意義】

消化器悪性腫瘍や炎症性疾患の多くは、依然として有効な治療法がなく予後不良な疾患も多く存在します。今回、ヒト腫瘍組織中における RNA やタンパク質を詳しく解析することにより、各腫瘍に特徴的な遺伝子発現変化やたんぱく発現変化を明らかにして、各悪性腫瘍や炎症性疾患の原因メカニズムを見出し、近年その重要性が高まっているいわゆる分子を標的とした治療、いわゆるオーダーメイド治療の実現にむけた基礎的知見を集積し、将来の臨床応用へと発展させることができます。

【研究責任者】

医学部 消化器内科 教授 前田 慎

【共同研究機関】

なし

【試料提供協力】

横浜市立大学附属病院 一般外科、消化器・肝移植外科

【使用予定試料の対象】

胃、膵臓